

国際姉妹都市交流を題材とした平和学習

山内 圭

国際交流

(2011年11月22日受理)

本報告は2009年4月23日、筆者が長崎市の平和公園及びその周辺において、修学旅行中の新潟市立白新中学校の生徒に対して行った平和学習の講話に関するものである。国際姉妹都市交流の目的の一つに「平和」が挙げられるが、国際姉妹都市交流について学ぶことで、世界平和について理解を促すことが可能であることが、この講話を経験して実証された。

(キーワード) 国際姉妹都市交流, 平和学習, 長崎市

はじめに

2009年3月、新潟市立白新中学校の伏見史朗先生及び同中学校の当時2年生であったI.W.さん¹⁾より、筆者の「長崎市とセントポール市の姉妹都市交流 ― 初の日米姉妹都市交流 ―」(新見公立短期大学紀要 第25巻所収)について問い合わせがあった。問い合わせ内容は、筆者が長崎在住であったら、4月に実施する長崎への修学旅行の平和学習での講話をお願いしたいところだが、長崎在住ではないようなので、代わりに誰に会って話を聞くことがよいだろうかというものであった。筆者は、前掲論文をまとめる際、世話になった長崎セントポール姉妹都市委員会会長で長崎大学環境科学部教授の宮西隆幸氏、長崎市役所の元国際課長の山下和俊氏、論文執筆当時長崎市役所国際課に勤務されていた松尾緑氏、セントポール市からのロータリークラブ奨学生として長崎に留学し、それが縁で長崎市の女性と結婚し、現在長崎市内でビザ店を営むクリス・ティアニー(Chris Tierney)氏の名前を出し、筆者も平和学習に役に立てるなら、日程の調整がつく限り長崎を訪問し生徒たちにお話することも可能であることを答えた。

生徒たちの春休みが明け、新学期が始まった4月、再び伏見史朗先生とI.W.さんより電話をもらい、4月23日に長崎市で平和学習を行うとの報告を受けた。講話の担当者として、長崎セントポール姉妹都市協議会の宮西会長、セントポール市に2008年夏に派遣された生徒が在籍する長崎純心高校、そして可能であるならば筆者にお願いしたいとの話をいただいた。自分の研究が中学生の平和学習に役立つことは、筆者にとっても望外の喜びであるため、申し出に快諾した。

講話内容

1) 自己紹介

講話に先立ち、次のようにまず筆者の自己紹介を行った。

- ・静岡県出身(浜北市立浜名中学校卒、中学校の修学旅行は京都・奈良方面)
- ・中学校時代は生徒会長を務め、野球部所属
- ・横浜国立大学教育学部で中学校教員免許(英語)取得
- ・1995年4月新見女子短期大学(講話当時:新見公立短期大学)赴任
- ・1998年より地域の姉妹都市交流に関わる(講話当時まで新見市の姉妹都市アメリカ合衆国ニューヨーク州ニューパルツ・ヴィレッジを11回訪問)
- ・新見市国際交流協会理事
- ・2004年から長崎セントポール姉妹都市委員会会員
- ・2008年7月アメリカ合衆国ミネソタ州カンザス・シティで開催されたSister Cities International(国際姉妹都市協会)年次大会参加
- ・新潟市は一度だけ訪問(秋田から横浜に帰る途中、新潟駅で降り、駅周辺で昼食をとり数時間過ごす)

次に、グループの生徒5名(I.W.さん、D.I.君、T.I.君、N.S.さん、M.M.君)から所属部活動、好きな教科などを含めた自己紹介があった。

以下、生徒たちがあらかじめ筆者に提出していた質問状に筆者が回答する形で講話を進めていった。

2) このテーマを選んだ動機

生徒たちは、それぞれの興味に基づいてテーマ選定をしたそうだが、このテーマを選んだ動機、どのようにして筆者の論文に出会ったか、筆者の論文を読んだ感想などに

*連絡先: 山内 圭 新見公立大学 看護学部 718-8585 新見市西方1263-2

ついて尋ねてみた。

【筆者】

なぜ、長崎市とセントポール市との姉妹都市交流に興味を持ったか？

【生徒】

- ・日本で一番最初の交流ということに魅かれた。
- ・国際交流に興味があった。

【筆者】

どのようにして私の論文に出会ったか？

【生徒】

- ・担当の先生が準備してくれた資料の中に含まれていた。

【筆者】

私の論文を読んでみての感想などあれば聞かせてください。

【生徒】

- ・よく調べられているなあと思った。

この5人の生徒たちを通じ、白新中学校図書館に対して、同論文の抜き刷りを寄贈した。

3) 今日のこれまでの訪問（宮西先生、長崎純心女子高校）ではどんな話を聞いたか？

- ・長崎セントポール姉妹都市委員会委員長宮西隆幸先生からは、交流の概要を聞き、セントポール通りを歩き、浦上天主堂に行った。
- ・長崎純心女子高校では、資料をもらい、昨年セントポールに派遣された2名の生徒に話を聞いた。

4) 生徒たちの質問への回答

【生徒】

長崎市はセントポール市と姉妹都市交流を結んだのが1番早いのに、なぜモニュメントなどの寄贈が最も遅かったのですか。

【筆者】

原爆を投下した当事者国として、アメリカ合衆国として寄贈を推進しにくかったからだと思います。アメリカからのモニュメント寄贈がなかったことは黒澤明監督の映画『八月の狂詩曲（ラブソディ）』（1991）²⁾においても言及されています。また、1990年に来日したセントポールのジム・シャイベル市長もこのことに気づきました。国としてのモニュメント寄贈が難しいようなら、姉妹都市セントポールの市民から寄贈をしようという動きがあり、寄贈に至ったようです。

これに関連し、DVD『八月の狂詩曲』の関連シーン（5～6分、映画の開始から19分40秒のあたり）をパソコンで見てもらった。

また、公園内の実際のモニュメントも後で見て回った。

【生徒】

姉妹都市提携を結んでから20年間、なぜ記念通話のみの

交流だったのですか。

【筆者】

当時は現在のように簡単に行き来ができるわけではなかったから。電話料金は現在ではだいぶ安くなりましたが、当時はきっと高かったと思います。でも地球の裏側からの声が聞こえるということは、すごいことで、当時の皆さんはきっと感動・興奮したことと思われます。

現在の私たちは日米間を簡単に行き来でき、とてもありがたいことであることを指摘した。

【生徒】

田川市長がセントポール市に行っただけで、浦上天主堂が取り壊されたと言われていますが、実際はどのようなのですか。本当に友好が目的だったのですか。

【筆者】

この辺りの真実はベールに包まれているようです。そのことについて追求していたテレビ朝日の『ザ・スクープ』の番組ビデオを同番組スタッフから送ってもらいました。皆さんにビデオとDVDを進呈いたします。そのような目的（原爆の証拠を消し去る）があった可能性はゼロであるとは言えませんが、いずれにせよ、姉妹都市交流が平和に貢献できることは確かです。

【生徒】

セントポール市と提携を結んだ後、なぜ次はブラジルのサントス市と提携を結んだのですか。

【筆者】

サントスは長崎と同時期にポルトガル船の来航により貿易港として開かれました。また、1908年に日本からの第1回南米移住団が長崎港から出航し、サントスに上陸したというつながりもあります。なぜ次がブラジルかというのは、特にそのような意図があったわけではなく、姉妹都市提携をしようという雰囲気が醸成されてきたのだと思います。なお、日本からブラジルへの移民の話は、石川達三『蒼氓（そうぼう）』（新潮文庫）を読むとよいと思います。

【生徒】

なぜ、記念公園にセントポール市がモニュメントを置かなかったのですか。（1981年）

【筆者】

最初の質問の回答参照

【生徒】

なぜ、長崎市は敵国であるアメリカの都市と姉妹都市提携を結んだのですか。

【筆者】

これまで敵国でしたが、これからは平和な関係を築こうという考えのもと、姉妹都市提携が進められました。したがって、戦後直後の1950年代は日米間の姉妹都市提携が多くなっています。また第2次世界大戦で荒廃したヨーロッパの諸都市を救う目的で戦勝国の都市が姉妹都市提携をした例も多いです。昨年（2008年）の国際姉妹都市協会の年次大会には、アメリカが戦争を仕掛けたイラクからの生徒

が招待されていました。これも同様の目的であると考えられます。

生徒

セントポール市が親善使節団を送ったのがなぜ最も遅いのですか。

この質問については意味がわかりにくかったので確認させてもらった。確認したところ、他の姉妹都市からの親善使節団よりもセントポール市からの親善使節団が遅かったという意味であった。

筆者

理由は分かりませんが、姉妹都市交流の場合、日本側は市町村等から補助金が出ることがほとんどですが、アメリカの場合は参加者の自己負担のことが多くなっています。だから大体、どの交流でも日本人が行く人数のほうが、アメリカから来る人数よりも多くなっています。

生徒

1975年から急にセントポール市との交流が活発になったわけは何ですか。

筆者

交流20周年を迎えたということが大きいと思われます。また、1970年代には、ジャンボジェット機が初めて羽田に飛来して、マス・ツーリズムの幕開けとなった³⁾からという時代背景もあります。

生徒

セントポール市で平和に関する記念式典が開かれたが、なぜこんなに遅いのですか。

筆者

1975年に原爆展を開催しているのは、おそらく原爆から30周年、姉妹都市提携から20周年という節目の年だったからだと思われます。罪はないアメリカの一般市民に対して、原爆の話をするのは意外と難しいことです。

生徒

江角ヤスさんは、どんな思いで純心大学を創設したのか。

筆者

純心女子高校で尋ねるのが最適でしょう。

生徒

セントポール市との姉妹都市との提携に江角ヤスさんの思いは関係しているのですか。

筆者

これについても同じく純心女子高校で尋ねるのがよいでしょう。

生徒

25周年記念の祭典への長崎市とセントポール市の人々の思いはどのようでしたか。

筆者

25周年は記念通話を行ったようです。これまでアメリカを何度か訪問したり、アメリカ人と交流したりして思うのは、アメリカ人は日本人よりも25あるいは75という数字にこだわるということです。例えば、新見市の姉妹都市ニューパルツでは、その地に入植して275周年に当たる年とニュ

ーヨーク州立大学ニューパルツ校の前身となった学校ができて125周年となる年に、275周年祭と125周年祭を盛大に行っていました。日本でしたら275周年や125周年という数字は特別に祝う年ではないかもしれませんが、アメリカには50セントコインはないですが、25セントコインがあります。これも25を重視する気持ちが表れたものと考えられることでもできるでしょう。姉妹都市交流は、結婚にたとえることができると思いますが、結婚25周年とは銀婚式に当たります。

生徒

アメリカの市長がアメリカからのモニュメントが平和公園になくて驚いたときの様子を聴かせてください。

筆者

宮西先生に尋ねるとよいでしょう。

宮西先生からの回答はなかったということであったので次のように回答した。

筆者

他の国や他の姉妹都市からのモニュメントはあるが、自分の国や自分の市からのモニュメントはありませんでしたが、原爆を落とした当事者国であったということで、非常に複雑な心境だったと推測します。

生徒

今まで長崎市はセントポール市とどのような交流をしてきたのですか。

筆者

各種資料にあるよう、さまざまな交流をしています。姉妹都市交流がうまく継続してゆくためには、さまざまな団体同士、人々同士の複線交流が必要であると考えています。自治体内の同種団体同士が姉妹関係を結ぶ例も多いですし、交流内容も多いので、長崎市とセントポール市はなかなかすばらしい交流をしていると判断できます。毎年、派遣留学生とその家族、そしてホームステイ先と多くの年齢層の姉妹都市交流への理解者を増やしているロータリークラブの高校生の相互派遣制度が特によいと考えられます。

生徒

セントポールの人たちは長崎について、どのように考えているのですか。

筆者

私はセントポールに行ったことがないので（セントポール空港での航空機の乗換えのみ）、語る立場にはありません。

しかし、このように長い交流が続いているので好意を持っている人が多いことは推察できます。長崎市にもセントポール通りがあるように、セントポールにもナガサキストリートがあるようです。そのことにより多くの人が「長崎」の名を知っていることと思います。しかし、どの交流でも、市民全員が姉妹都市の相手自治体のことを知っているということではなく、無関心な市民ももちろんいます。

生徒

どのようなきっかけで長崎とセントポール市の交換留学

生が始まったのですか。

筆者

提携20周年（1975年）を機に始まりました。しかしその前の1972年、姉妹都市提携に尽力したルイス・ヒルJr.氏の寄付で年2名の高校生が派遣されています。

生徒

セントポール市から来た留学生はどのような様子だったのですか。

筆者

これも語れる立場にありませんが、将来長崎市の女性と結婚することになるクリスさんのような人もいるのできつと受け入れ体制は、広く歓迎するようなよい体制と思われる。また、『広報ながさき』等に留学生のインタビュー記事が掲載されていますのでそれらを読んでもと様子がよくわかると思います。しかし、自分の出身地を離れて一人異国にやってくるというのは、勇気もいることですし、心細いこともあると思います。

生徒

今、先生から見て長崎とセントポール市の関係は、他の県の姉妹都市提携と比べてどうなのですか。

筆者

提携50周年（金婚式）を過ぎ、ますます充実した円熟期に入っているという印象です。姉妹都市交流という呼び名で「姉妹」と呼びますが、実は姉妹よりは夫婦に近い関係だと思われます。人間が恋愛をして、結婚をしていくことと、二つの自治体がお互いを訪問し合い、相手の地が気に入る、都市提携をするということが、似通っているように思います。また、新婚の楽しくてうきうきした時期を過ぎ、充実期に入る夫婦もいれば、倦怠期に陥ってしまう夫婦もいるのと同様に、姉妹都市交流にも倦怠期や充実期もあります。長崎市の姉妹都市交流に関わる人たちを見てみると、自分達が一番古い日米間の姉妹都市であるという自負と誇りがあるように感じられます。

生徒

どのようなことが目的で、また、きっかけで姉妹都市提携を結ぶのですか。

筆者

自然条件、国内の立地条件、共通産業、自治体内の施設、ゆかりのある人物、名前の共通性などがきっかけとなることが多いです。

自然条件では、例えば海岸で有名なマイアミビーチ市と湘南海岸のある藤沢市、国内の立地条件では、ハワイ州の自治体と沖縄県の自治体同士、アラスカ州の自治体と北海道の自治体同士、共通産業では、自動車産業が盛んなデトロイト市と豊田市、葉の町の富山市とダーラム市、自治体内の施設では、ディズニーワールドがあるオーランド市とディズニーリゾートがある浦安市、ゆかりのある人物では、ラフカディオ・ハーンがいたニューオリンズ市と日本で暮らした松江市、名前の共通性では、新城市とニューキャッスル市などの例が挙げられます。

筆者が書いた「日米姉妹都市交流研究事始一大佐町とニューパルツ・ヴィレッジの姉妹都市交流を足掛かりに―」（『新見公立短期大学紀要』第24巻 pp. 139-146）のコピーを渡し後で読んでもらうよう伝えた。

生徒

姉妹都市提携を結ぶ一般的な目的は何ですか。

筆者

究極的な目的は世界平和だと思います。もちろん、提携をすることによって、その他いろいろな効果があります。自治体の国際化、教育効果、地域文化の伝承および発表の場の提供などが考えられます。

これについても、筆者が書いた「日米姉妹都市交流が交流に関わるアメリカ市民に与える肯定的影響―旧大佐町とニューパルツ・ヴィレッジとの姉妹都市交流の場合―」（『新見公立短期大学紀要』第27巻 pp. 169-177）の論文のコピーを渡して読んでみるとよいことを伝えた。

説明の後、ディスカッションもできたらよいと考えていたが、時間的な制約もあり残念ながらできなかった。ただし、下記の項目については適宜説明の時に触れた。

- ・「姉妹」都市は「姉妹」か「夫婦」か？
- ・姉妹都市交流を祭りにたてることもできる。
- ・河の流れにも例えることができる。

5) 平和公園のモニュメント、セントポール通り、セントポールに縁のあるもの等紹介

セントポール通りは午前中に通ったとのことだったので、公園内の寄贈モニュメント、植樹を中心に周った。

6) 推薦図書を紹介

生徒たちへの推薦図書として以下の書を紹介し学習を深めることを促した。

毛受敏浩『異文化体験入門』明石書店、212 pp. 2003.

毛受敏浩『草の根の国際交流と国際協力』明石書店、298 pp. 2003.

毛受敏浩『姉妹都市交流ブックレット～あなたの町の国際交流をより元気にするために～』国際交流基金日米センター、65 pp. 2006.

最後のメッセージとして、機会があればぜひ姉妹都市交流活動に参加してみることを奨めた。彼らの住む新潟市もアメリカ合衆国テキサス州ガルベトン市との交流もあり、ロシアのハバロフスク市、ウラジオストク市、ピロビジャン市との交流もある。姉妹都市交流に関わっていると普段の生活ではなかなか感じるできない感動が感じられる。また、交流をしてゆく中で相手の国の友人が増えてゆくと、人は自分の友人のいる国とは戦争をしようとは思わないはずである。したがって、いろいろな国と姉妹都市交流を行ってゆき、そのネットワークが広がってゆけば、どこの国とも戦争をしなくなるので、この姉妹都市交

流というのは、そのような意味において、究極的には世界平和につながっている活動である。また外国人を招くときなどに、日本文化を紹介しようと思うので、自国文化に対しても理解が高まり、自分の国、自分の町、自分の文化についても見直すきっかけとなる。

ただし、姉妹都市とだけ交流をしていたのでは、交流が限られたものになってしまう。ここは長崎で江戸時代は鎖国状態で長崎の出島でのみオランダと中国との交流をしていたのであるが、姉妹都市との交流のみに終わってしまうと、「鎖国」状態になってしまう恐れもある。市内に在住する外国出身者とも交流を深めるべきであり、姉妹都市以外の国や地域にも関心を持ち、積極的に交流・訪問をしてもらいたいということも述べた。

もし、将来姉妹都市に派遣されることなどがあれば、ぜひその報告を聞かせてもらいたいと告げ、話を終えた。

新潟市とガルベストーン市との交流のきっかけは何だったか尋ねられたが、筆者もまだ本格的に新潟市の国際姉妹都市交流の調査をしていないのでわからないので今後調べてみたいが、皆さん自身でも、新潟市役所等に資料があるだろうから調べてみたらよいだろうと回答した。

7) 学習効果について

当日、グループごとに分かれて学習している生徒たちの学習状況を確認するため、同中学校のお二人の教諭の訪問を受けた。

後日、講話を行った生徒たちからお礼状ともに、感想のコメントが届いた。

それらを列挙してみると次のようになる⁴⁾。

I.W.さん

先日は本当にありがとうございました。先生にお会いできるのをとても楽しみにしていました。山内先生は姉妹都市について詳しく調べていて、私たちは調べてきたこと以上の内容を知ることができました。「姉妹都市提携が平和につながる」ということが一番心に残っています。学んだことをこれから活かして行きたいと思います。これからも姉妹都市の研究頑張ってください。ぜひ新潟にも来てください。

D.I.君

先日はたくさんのお話をお聞かせ下さりありがとうございました。私は、世界中が姉妹都市になれば戦争がなくなるという話が一番印象に残りました。また「姉妹」ではなく、「夫婦」というのは日本ではとても当たっていると思いました。外国で男女差別などがあるところでは、やっぱり姉妹都市が合っていると思いました。本当にありがとうございました。

T.I.君

先日はたくさんのお話をありがとうございました。全ての国が姉妹都市になれば戦争がなくなるという言葉が心に残りました。本当にありがとうございました。

N.S.さん

先日は本当にありがとうございました。先生はていねいに質問に答えてくださって、学校での活動でも先生から学んだことがしっかりと生きています。これからもお体にきをつけて頑張ってください。

M.M.君

先日はお世話になりました。山内先生のお話の中でセントポールと長崎の姉妹都市提携は平和を築いていこうという考えのもと進められたということがわかりました。このような考え方が世界に広がっていくといいと思いました。

おわりに

本論は、筆者が2009年4月23日、長崎市にて行った新潟市立白新中学校の3年生に対して行った平和学習の講話内容及び、その学習効果についてまとめたものである。

筆者は、国際姉妹都市交流の活動及びその研究が、究極的には世界平和につながるものであると信じ、活動や研究を進めるとともに、推進もしてきたのであるが、今回の経験で、平和について考え学習する平和学習においても、国際姉妹都市交流について学習することが一定の役割を果たせることを身をもって感じた。

謝辞

今回、筆者に長崎市における平和学習に関わる機会を与えてくださった新潟市立白新中学校の伏見史朗先生及び同中学校の生徒たちに感謝の意を表したい。

註

- 1) 以下、中学生の氏名はイニシャルで表記することとする。
- 2) 山内 圭：長崎市とセントポール市の姉妹都市交流 ― 初の日米姉妹都市交流 ―、新見公立短期大学紀要、第25巻、p. 126では、この映画の制作年を1988年と記しているが、1991年の誤りである。
- 3) 高橋一夫：国際交流時代の旅行商品 ― 旅行事業と観光文化 ―、観光文化論、北川宗忠編、ミネルヴァ書房、111-133、2004。
- 4) 中学生の感想コメントの表記は、原則的に書かれたまま記載したが、一部誤記と思われるものは修正した。

山内 圭

Learning about International Sister City Exchanges in Peace Study

Kiyoshi YAMAUCHI

Department of Nursing, Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585, Japan

Summary

This paper reports on my instruction to a group of students at Hakushin Junior High School in Niigata City. The instruction was done at Nagasaki Peace Park as a part of their peace study during their school excursion trip to Nagasaki City. Through this instruction, learning about international sister city exchanges proves to function as peace study.

Key words: international sister city relationship, peace study, Nagasaki City